

CSR担当役員メッセージ

持続的成長を 実現するために

代表取締役 専務執行役員
CSR・コンプライアンス担当
管理担当 経営企画本部長

村上 周二

「人材への投資～事業を通じた社会貢献」の サイクルを大きく回す

安川グループは、創業者安川第五郎が、その父安川敬一郎の「産業を興して国の恩に報ゆる」の志に基づいて設立したものであり、その経営理念では「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」ことを掲げています。

この経営理念の下、当社は産業自動化分野での事業遂行を通じて社会の発展に貢献するとともに、高効率なパワー変換技術を活用した省エネ・創エネ事業を推進することで、地球の環境負荷軽減に寄与しています。また、産業の自動化を通じて培ったメカトロニクス技術の医療・福祉分野への応用により、人々の生活の質向上を目指すことで、人類の福祉に貢献するよう努めています。



さらに敬一郎は当社の設立以前に、技術者養成の明治専門学校（現九州工業大学）を開校し人材育成にも力を注ぎました。後々それら人材が当社グループを活躍の場とし、新たな技術・事業を創出するという価値循環の大きなサイクルができています。当社グループもまた、従業員はもちろん地域の教育・研究機関を含め「人材育成に投資し、社会に貢献する」という取り組みを重ねながら、創業以来100年にわたり、地域とともに発展してきました。

現在では、2015年の創立100周年に合わせて整備した北九州市の本社事業所（本社・ロボット工場）を「ロボット村」と名づけ、事業所内に新設した「安川電機みらい館」や「ロボットがロボットを作る工場」の見学を通じて子ども達をはじめ多くの方々に、ものづくりの楽しさや技術の凄さを身近に体験していただいております。また、北九州市と連携し産業観光のルートに入れるなど、地域社会の活性化に努めています。

このような思想を受け継ぎ、当社グループがグローバルに進出した各地域においても、地元大学との共同開発や人材の受け入れ、そして、活躍の場の提供など各地域に合った協業を積極的に行っています。

例えば、2018年9月の稼働を目標に欧州ロボット工場の設立を進めているスロベニアでは、約20年前からロボットシステムの生産を手がけ、地元の政府や教育機関との様々な協業を通じて優秀な技術人材を確保し事業を拡大してきました。この地域社会との良好な関係があつてこそ、欧州におけるロボット工場の新設が実現し、その結果、スロベニアという地域や、欧州のお客様との関係をさらに密接に強化させることができるようになります。

このように、地域社会に根差した取り組みをグローバル各地で展開していることが、当社グループの強みとなっています。

「多様性」と「オープンイノベーション」を 持続的成長の実現につなげる

一方、今後のビジネス環境に目を向けると、これまでのアプローチに加え、さらなるステップアップが必要と考えます。「2025年ビジョン」で掲げた目標の達成や、次の100年に向けた持続的成長を実現するために、革新的なイノベーションを継続して起こせる企業にどのようなようになっていくか——この課題に対し、「多様性」と「オープンイノベーション」が重要なキーワードになると考えており、組織としてそれらを



上手く生かしながらさらに進化するための体制や仕組みを構築していきます。

例えば、ガバナンス面においては、これまで2012年の執行役員制度導入や2015年の監査等委員会設置会社への移行など、取締役会の機動性や客観性・有効性を向上するための積極的な取り組みを行ってきました。今後は、攻めのガバナンス体制の構築に向け、取締役会の多様性向上を図っていくと同時に、新たな事業領域などに対しリスクヘッジを行いつつ、より意欲的なチャレンジを行っていくための仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

従業員を含めた組織としても、多様な価値観を尊重し、全ての従業員にとって働きがいのある環境を整え、チャレンジを評価する風土の醸成、チャレンジする人材の育成を強化していきます。また、従来から教育・研究機関や地元政府との産官学連携を行ってきたように、新たな事業を興そうとして外部との連携を拡大しオープンイノベーションの可能性を広げることで、目標とする高い成長を実現していく考えです。

今後も安川グループの強みを生かし、経営理念である「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献」することで、ステークホルダーの皆様のご期待に応え続ける企業でいられるよう、進化を続けていきます。